

未来ひだか みらくる

2014年4月

日高農業改良普及センター

高品質な農作物生産は、適期収穫が大前提！

日高農業改良普及センター 所長 山黒 良寛

本格的な農作業がスタートしました。昨年は、春先の低温から生育はやや遅れましたが、その後生育は平年並に回復し、市場価格も堅調に維持されたことから、売り上げは過去最高を記録するなど、何かと明るい話題が多い年でありました。

どうか本年も、昨年と同様に実り多く、生産者皆様の所得向上につながることを祈念するばかりです。

しかし依然、燃油価格は高止まり、他の生産資材も高騰していることから、無駄、無理のない農業経営が重要となってきます。

ただ、これは生産コストの低減に向けた見直しではありません。

市場価格を形成するには、消費者ニーズに応えた良品質な農産物の生産と収穫量の確保が必要です。特に、良品質な農産物の生産には適期作業の実践が大前提で、その中でも重要なのは収穫作業です。収穫判断は、その品質を確保する最終段階であるわけですから、適期収穫ができるよう作業時間を確保しなければなりません。

無理、無駄な作付けを回避し、相対的に単位当たりの所得を確保することで、全体の生産コスト割合の低減を図り、効率的な経営にシフトを図らなければなりません。

そのためには、自家労働だけでは限界がありますので、今後は労働力の供給システムを、地域の状況に応じて整備していかなければなりません。担い手の確保、育成による産地維持と併せて、労働対策も地域全体で取り組みむべきな課題です。



★ お知らせ ★

普及センターより「未来ひだか」は1年2回（1月、4月）発行しています。皆さんの営農に役立つ情報を提供するため、紙面に対するご意見を募集しています。お気づきの点がありましたら、下記までご連絡ください。

E-mail:hidakachu-nokai.11@pref.hokkaido.lg.jp

FAX:0146-42-2521

参考にしよう！ 地域の活動事例

～詳細は日高農業改良普及センターホームページで紹介しています～

アドレス <http://www.hidaka.pref.hokkaido.lg.jp/ss/nkc/index.htm>

牛、快適！ クリンカで牛床改善 地域で普及

【新ひだか町】

火力発電所から発生する石炭の燃えがら「石炭灰」（商品名：クリンカ）を利用し、牛のストレスを軽減する取り組みが広がっています。石炭灰は多孔質で砂に似た粒状の物質です。透水性に優れ、パドック等の泥濘化防止剤として有効です。価格も安価で自力施工が可能です。



パドックでの基本施工手順は

- ①泥濘化した表土の除去
- ②地盤を堅く踏み固める
- ③石炭灰の敷敷
- ④鎮圧

改善事例のパドック模式図

地盤に勾配をつけたり、明渠や暗渠を設置すると排水性が高まります。

また、パドックだけではなく牛床にも利用できます。

※詳しくは普及センターまでお問い合わせください。



快適なパドック



石灰灰

砂りよ



牛床にも利用可能

乳牛の周産期疾病予防対策の取り組みと成果

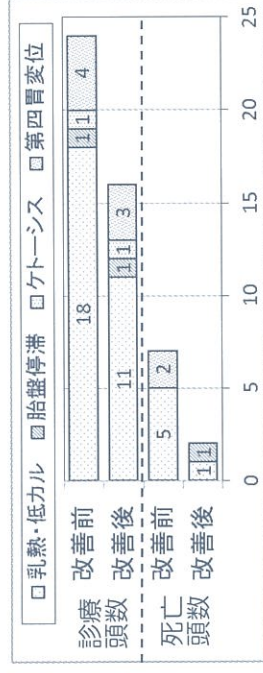
全道各地で実施されている周産期疾病対策に日高町のモデル農家が取り組みました。

普及センターで飼料設計案を提示し、その内容通りの正確な給与を行いました。

- ①取り組み内容
 - ・泌乳期・乾乳前期のミネラル給与をリン酸の含まれない飼料用タンカルに変更。
 - ・乾乳後期の配合飼料を搾乳用から乾乳用に変更する。
 - ・隣の牛が配合飼料を食べ終わるまでロープで繋ぐなどの盗食防止対策を行う（右写真）。
- ②取り組み結果
 - ・周産期疾病減少により診療・死亡頭数が減少した（右図参照）。
- ③モデル農家の声
「取組自体は今までの管理とほとんど変わらないので苦ではない。」
「起立不能、漏乳は少なくなった。」

今後は他の農家へ取り組み内容を周知し、周産期疾病予防を進めていく予定です。

【日高町】



周産期疾病発生頭数



ロープでつないで盗食防止

トマトの省力化栽培 パート2

【平取町】

働く人の高齢化に伴い、農作業の省力化は生産現場での大きな課題で、平成24年から省力化試験に取り組んでいます。

平成25年は株間を慣行の40cmから45cmに広げて栽培することで、作業労働時間の短縮や育苗資材費の節減、病害発生軽減を図り、1株当たりの収量向上を目的に取り組みました。

＜試験における株間45cm区の優位点＞

- ① 定植から収穫残渣処理までの作業労働時間が約3時間30分短縮できた。
- ② 灰色かび病の発生株率は10～30%軽減できた。
- ③ 育苗資材費は約1万2千円節減することができた。
- ④ 100坪ハウス慣行の株間40cmの方が約88kg多かったが、1株収量では約360g上回った。

試験を行ってくれた生産者からは「株間5cmの差だが、定植作業が楽だった。また、定植作業終了後には広く感じた。」「株間が広いので、誘引作業や脇芽除去がしやすかった。」などの声が聞かれました。

平成26年は生産物の規格等、詳細について調査する計画です。

株間試験における収量等比較

株間	100坪ハウス当り		1株当り収量(g)
	本数(本)	育苗資材費(円)	
40cm	854	77,152	2754.0
45cm	744	65,407	2665.6
差	-110	-11,745	-88.4



45cm株間の生育状況
(平成25年8月23日撮影)

特別栽培米の地産地消

もっと知って！食べて！「浦河の特別栽培米」

【浦河町】

JAひだか東では、浦河町で栽培された特別栽培米をAコープとJA直売所で販売しています。平成25年からネーミングを『浦河の特別栽培米』に一新し、「町内の農家が栽培方法にこだわって作ったお米を、町民に食べてもらおう」を合言葉に、神威岳の山なみをイメージしたデザイン、浦河高校書道部の生徒が書いた文字を採用するなど、浦河にこだわった、新しいパッケージで販売を開始しています。

またパンフレットによるPRや、町内イベントでの試食販売では消費者の反響も上々で「おいしいね！ひとつちようだい」の声に、農家も関係機関も手応えを感じています。

この地産地消の取り組みは、消費者にとっては生産者の顔の見える安全安心な「特別栽培米」を食べることができ、また、農家は所得の確保と水田の維持、農業の継続ができるという、両者が支え合う取り組みにつなげていきたいと考えています。

平成26年には特別栽培に取り組み農家も4戸に増え、生産者と関係機関のPR活動にもますます熱が入っています。



「浦河の特別栽培米」パンフレット



農家による試食販売（農協祭にて）

注目！ 地域の話題コーナー

普及センター発！ 地域課題解決の手法と方向性をJAと共有
 ～第5次新冠町農業振興計画実践内部研修会の開催～ 【新冠町】

平成26年2月4日、JAにいかっぴ会議室において、「第5次新冠町農業振興計画実践内部研修会」が開催されました。

これまで普及センターが行っている、重点地区をとらえて地域課題解決を行う手法を、多くのJA職員に理解してもらおうと企画されたもので25名の職員が参加しました。

JAからは「この研修は、技術から経営まで幅広い内容。職員の経験によって理解に差があると思われるが継続してこうした機会を積み重ね、その差を解消したい」との話があり、これからのJA職員の活躍が期待されます。



講師を務めた普及センター職員

平成26年4月1日付けで職員の異動がありました

< よろしく願います >



本所地域担当
次長
佐々木利夫



本所地域担当
調整係長
(新ひたか町)
土肥 精司



本所地域担当
地域係長
(新冠町)
大嵩 政博



本所広域担当
主査
(高付加価値化)
三上 泰史



西部支所
地域担当
地域第二係長
(日高町)
新井 佳紀

< お世話になりました >

転出先

本所	次長	木戸 好文	退職 (再任用：渡島農業改良普及センター渡島北部支所 専門普及指導員)
本所	調整係長	竹岡 裕之	技術普及課畜試技術普及室駐在 主任普及指導員
本所	地域係長	鈴木 康義	技術普及課上川農試技術普及室駐在 主任普及指導員
本所	主査 (高付加価値)	佐藤 賢一	空知農業改良普及センター北空知支所 地域第二係長
西部支所	地域第二係長	村瀬 直紀	十勝農業改良普及センター十勝東部支所 調整係長

日高農業改良普及センター本所 TEL 0146-42-1489 FAX 0146-42-2521
 〒056-0005 日高郡新ひたか町静内こうせい町2丁目2番10号

日高農業改良普及センター日高東部支所 TEL 0146-22-9347 FAX 0146-22-2559
 〒057-8558 浦河郡浦河町栄丘東通56号 日高振興局内

日高農業改良普及センター日高西部支所 TEL 01457-2-2055 FAX 01457-2-2918
 〒055-0107 沙流郡平取町本町105-6

日高農業改良普及センターホームページアドレス <http://www.hidaka.pref.hokkaido.lg.jp/ss/nkc/index.htm>